

アフリカの母子保健に携わる 行政官・医療従事者 12 名が滋賀県を訪問

妊産婦の死亡率は世界的には改善傾向にあるものの、依然として深刻な問題であり、特にサハラ砂漠以南アフリカの妊産婦の死亡率は他の地域と比べて高いのが現状です。持続可能な開発目標（SDGs）の目標3でも母子保健の改善を挙げており、JICA としても重点支援分野の一つとしています。

JICA 東京で実施される本研修は、上記支援の一環として「継続ケア※」の概念のもと、研修員が日本の経験を学び、他国の参加者と経験を共有しながら、自国で実現可能な活動を明確にすることを目的としています。

今年度は以下の日程で、県内の母子保健指標を大きく改善させた実績がある滋賀県において、産前産後の切れ目ない支援として医療機関と行政機関が連携し、母子を支えている取り組みを学びます。

※継続ケアとは妊娠前-妊娠-出産-産後-乳幼児という時間の流れや、家庭-地域-病院という空間の中で、母子に対して継続的に提供される保健サービス全体のこと。



【過去の研修風景】

【スケジュール】※全行程通訳が同行します。是非取材をご検討ください。

日付	時間	場所	プログラム
7月30日(火)	13:30-16:00	滋賀県庁	表敬訪問・【講義】滋賀県の母子保健・周産期医療
7月31日(水)	9:30-12:20	滋賀医科大学医学部附属病院	【講義】滋賀県の周産期医療 【見学】母体胎児集中治療室と新生児集中治療室
	14:00-16:00	医療法人医療法人 真心会 野村産婦人科	【見学】施設説明・施設内見学
8月1日(木)	10:00-12:00	滋賀県立小児保健医療センター	【講義】【見学】小児保健医療センターの取り組み
	13:30-15:30	オリーブ守山保育園	【見学】施設説明・施設内見学
8月2日(金)	9:30-16:00	守山市すこやかセンター	表敬訪問・【講義】守山市母子保健事業の取り組み 【見学】10か月健康診査(乳児健診)

【研修概要】

研修コース名：アフリカ仏語圏地域 妊産婦の健康改善（行政官対象）

研修期間：2019年7月22日(月)～8月14日(水) 実施機関：国立研究開発法人 国立国際医療研究センター

参加国：ベナン、ブルキナファソ、ブルンジ、チャド、コートジボワール、コンゴ民主共和国、ギニア、ニジェール、セネガル、トーゴ

【問い合わせ先】※取材をご検討の際には、7月26日(金)までに一報いただければ幸いです。

独立行政法人国際協力機構（JICA）東京センター 人間開発・計画調整課 鎮目 琢也、菅野 直美

TEL 03-3485-7469 e-mail: Shizume.Takuya@jica.go.jp, Kanno.Naomi@jica.go.jp